

県警ヘリ２機による患者搬送訓練を実施－広域搬送体制のさらなる強化へ

令和７年７月１日、琉球大学病院にて、沖縄県警察航空隊との連携による患者搬送訓練が実施されました。前日の沖縄県ドクターヘリ受け入れ訓練に続き、２日連続の訓練実施となり、実動を想定した搬送体制の検証を行いました。

当日は、県警所有のヘリコプター「しまもり」「うりずん」の２機が交互に病院屋上のヘリポートに着陸し、模擬患者の引き継ぎおよび救命救急センターまでの搬送を行いました。訓練には、警察航空隊員のほか、病院の医療スタッフ、施設管理、警備担当者などが連携し、着陸時の安全確保から搬送経路の確認、情報伝達の迅速化など、各場面における連携手順の確認が行われました。

琉球大学病院では、屋上のヘリポートと救命救急センターが直結する構造を活かし、救急医療の「時間との闘い」に対応する体制を整備しています。本訓練は、警察による離島・災害時の搬送にも備えた広域対応能力の強化を目的としたものであり、警察と医療機関が連携して命をつなぐ体制の実効性を高める重要な取り組みとなりました。

今後も、関係機関と協力しながら、多様な搬送手段に対応可能な病院機能の充実を図ってまいります。



病院屋上に到着した沖縄県警ヘリ



模擬患者引き渡しの様子



琉球大学病院医療スタッフ（右）と沖縄県警察航空隊（左）とのミーティング